

第2回対人支援スキルアップ部会を開催しました

○9月3日(水)に第2回対人支援スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー7人、上越地域在宅医療推進センター1人、事務局4人の12人でした。



○今回の議題

- (1) 第4期(R8~10年度)に向けた課題の確認
- (2) 事例検討

○部会での検討事項等

- (1) 第4期(R8~10年度)に向けた課題の確認

- ・今後も研修パッケージを継続利用していくために、より精度を上げていく必要があるのではないか。
- ・これまでに重ねた事例検討をまとめ、誰もが気軽に見ることができるよう整理できるとよいのではないか。
- ・立場により異なる意見をどのようにまとめるか、『臨床倫理』について深めていく事ができるとよいのではないか。

- (2) 事例検討

【疾患を患いながらも「手術は望まない」との意思を明確にされている事例】

◇感想・気づき◇

- ・意思を明確にされていても、状況により決断が変わるケースもある。その都度、本人の考えを聴きながら、家族とも話し合うことが大切である。

- ・主治医から本人と家族に、手術の利点とリスクを説明し、理解していただくことが重要と感じる。
- ・本人の状態を考えると、1日1回誰かの目が入るといいのではないかな。誰かの目が入れないとしても、本人の動きがないことを検知して連絡をくれるような装置を設置したらどうか。
- ・キーパーソンの長男に、本人の想いを気にしてもらうのも大切なのではないかな。家族に心配してもらうことが、本人の安心につながることもあると思う。
- ・「手術は望まない」と言ったとき、検査が立て続けにあり、本人にとって大変な時期だったのではないかな。時期が違えば答えも違っていただろう可能性がある。
- ・本人は今までの生活や歩んできた人生の「物語」から、今後について自分なりの選択をしているため、その選択を尊重することも大切である。
- ・人生は選択の連続である。医療での選択の場面では、JONSENらの4分割法※を活用し、整理している。(※患者中心の意思決定を支援するための分析ツール)
- ・本人、家族の意向のさらに奥の“想い”を確認することが大切。
- ・想いは「今までの人生・物語」「今の想い」「これからの望み」といった時系列でまとめると、選択の根拠が見えてくる。
- ・自分の想いが初めからまとまらないのは当然のこと。信頼できる相手との対話の中で自然に考えがまとまっていく。支援者は、何度も想いを聞くことができる関係性をつくっておくことが大切。

○次回部会：令和8年1月頃を予定